



南高 なんこうだより（校長室から）R8 Vol.1 (R8.4.14)

81 回生が入学してきました。今年度もよろしく願っています。

令和8年度 第81回入学式 式辞

佐世保南高81回生のみなさん、そしてご家族の皆さま、ご入学おめでとうございます。合格発表の日から、特別選抜で受検した人は2か月以上、一般選抜で受検した人も1か月以上が経ちました。高校への入学は待ち遠しかったでしょうか。それとも不安だったでしょうか。

ここでは、81回生の皆さんに南高に入学するにあたり、私が皆さんに考えてほしいことを、三点述べます。

一つ目は、Tradition です。

「Tradition」という言葉の意味は分かりますか。「伝統」です。佐世保南高校は、1949年（昭和24年）に開校されました。皆さんは先ほど述べたように81回生です。ただし、南高の前身をたどると1908年（明治41年）に創立した佐世保中学校があります。そこから数えると118年になります。さて、南高は伝統ある高校と言えるでしょうか？

AIに、「伝統ある高校の特徴は何ですか」と尋ねると、「長い歴史と実績、独自の校風・文化、伝統行事の充実、卒業生のネットワーク、部活動の強さと歴史、在校生・卒業生ともに学校への誇りが強い、生徒の自主性を重んじる傾向」といった特徴を挙げてくれました。

3月24日に、本校で離任式がありました。その中で、この3月に佐世保南高を離任されたある先生が、「伝統」とは何か？という問いを投げかけました。この問いに対する「正解」はありません。しかし、この先生が印象に残る話をしました。それは、「君たち一人一人が伝統」になるのではないか、という話でした。

先ほど「伝統ある高校の特徴」について、「独自の校風・文化」と言いました。「校風・文化」は、例えば校長が決めるものではありませんし、これもまた「正解」はありません。81回生の皆さんが、79回生、80回生の先輩方、先生方とともに生み出していくものですし、それは約3万3千名の卒業生が積み上げてきたものを基盤とします。一人一人が、この南高の伝統を創っていくのだという高い意識をもって高校生活を送ってください。ちなみに、皆さんが3年生の時には、佐世保南高創立80周年記念式典が行われます。新たな南高の伝統を築いてもらいたいと強く願っています。

このように意識を高く持ってほしいのですが、毎日、毎日の高校生活を過ごしていくということは、簡単なことではありません。高校3年時には、人生の大きな選択に迫られます。高校生活は、その選択をするための日々と言っても過言ではありません。大事な選択をするために学んでいくと、いろいろな経験をします。そうすると、本当に予想していない色んなことがあります。それに対処する必要があります。そんな時にどうするか？ どうしますか？

二つ目は、この問いに対する1つの答えです。皆さんには支えとなってくれるたくさんの方がいる、ということを理解しておいてほしいということです。

皆さんの左手には、後ほどご紹介しますが、来賓の方がお越しくださっています。左側には南高の先生方が、後方にはご家族の皆さんがいらっしゃいます。また、入学式には参加していませんが、

2・3年生の先輩たち、そして何よりこれから同じクラス、同じ部活動、学校行事など、一緒に取り組んでいく81回生の仲間たちがいます。それぞれが、皆さんの支えとなってくれる存在です。高校生活では楽しいこともたくさんあるでしょう。しかし、バラ色の日々が続くわけでもありません。困難なこともあります。そうした時には、まずは自分でどうにかしようとするはずですが、皆さんはまだまだ心身ともに成長段階にあります。未完成な存在です。自分の力でどうしようもない時は、周りに助けを求めてください。頼ってください。南高の先生方は非常に生徒思いです。親身になって相談に乗ってくれるはずですが、遠慮なく相談してください。

ただし、お互いに支え合うには必要なことがあります。アメリカのジョージタウン大学ビジネススクールのクリスティーン・ポラス博士が、『「礼儀正しさ」こそ最強の生存戦略』という本を書いています。ポラス博士は「礼儀正しさ」の3つの原則として、笑顔を絶やさない、相手を尊重する、人の話に耳を傾ける、をあげています。これらは良好な人間関係を保つためには、ごく当たり前のことです。このポラス博士のすごいところは、こうしたこの当たり前の行動について、様々なデータを用いて調査・分析を行った点です。それに加えて「礼儀正しい」振る舞いができる人は、周りからリーダーにふさわしい人物だとみなされる傾向があり、必然的にその人の仕事の質も著しく高くなるということ、つまりその人自身の出世、社会的な評価にプラスに作用するということが明らかにしています。皆さんには、将来の日本や世界を背負ってほしい、リーダーとして活躍してほしいと願っています。そのためにも、高校生活の中で礼儀正しさを身に付けてもらいたいと願います。

最後に、三つ目です。

それは「人生に失敗なんかない、だから挑戦しよう」ということです。私たちは本当によく「失敗した」という言葉を使います。ここでも皆さんに問いますが、「失敗」って何ですか？

例えば、私がある女性に強く心をひかれたとします。そこで、すぐさまその女性に付き合ってくれと告白しましたが、振られてしまいました。この時点でこの恋は実らずに「失敗」だと言うでしょう。しかしその後、別に好きな女性ことができました。私は少し考えて、前回の振られた経験をもとに新しく好きになった女性と少しずつ仲良くなって、これはうまくいくと感じて告白したところ、うまくいった。これは「成功」です。この成功の裏には、最初に好きになった人に振られたという経験があるわけです。振られたことを先ほどは「失敗」と言いましたが、結果的にこの「失敗」から学んで、成功を勝ち取ることができた。そうすると「失敗」が「失敗」ではなくなるわけです。「成功」のためのプロセスなのです。

このように「失敗」はそれが起きた時点のことであり、先々では「成功」のもとになっていることはたくさんあります。勉強なども同じです。今回のテストは良い点数がとれずに失敗だった。しかし、次のテストは計画的に取り組んで良い結果が出た、ということなど。このように考えるとたくさん「失敗」した方が、たくさん「成功」を得ることができるとも言えます。高校生活の中で、皆さんの前にはたくさんの選択の場面が現れてきます。まず、部活動への入部はどうかという選択の場面があります。こうした時には、まずやってみる、挑戦してみる道を選択してください。違ったら、その時点で方向転換すればよいだけです。そして、その挑戦は、後から必ず役に立ちます。

南高は、夢の実現に向けて失敗を恐れず全力で挑戦する皆さんを応援する学校です。そのことを約束いたします。

令和8年4月8日

長崎県立佐世保南高等学校長 舟越 裕